

JA横浜 SDGs達成に向けた取り組み

JA横浜が掲げる「人と自然を大切にし、社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献する」という理念は、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」と共通するものです。

当JAの行う各事業はSDGsの目標と親和性が高く、ともにめざす社会・未来は同じです。

当JAは農業協同組合として各事業を展開し、SDGsの達成に向けて取り組みます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



●SDGsとは

「持続可能な開発目標（SDGs）」とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能で、よりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。

[外務省ホームページより]

JA 横浜は「食」と「農」を基軸とする協同組合です。

JA 横浜は、事業活動を通じて安全・安心、新鮮な農畜産物を提供することを使命としています。農業は消費者の皆さまへ提供する食料などの生産を通じ、地域の経済や社会を豊かにするとともに、地域の環境や景観の保全に寄与するなど、食と農と水を守る多面的な役割を果たしています。私たちは、「食」と「農」を基軸とする地域に根ざした協同組合として、SDGs の達成を目指します。

～「食」と「農」にかかわる SDGS 施策の一例のご紹介～

■持続可能な農業へ、「GLOBAL G.A.P.」認証の取得

GAPとは農業において、食品安全・環境保全・労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みです。当JAでは、国際的な認証基準である「GLOBAL G.A.P.」の認証も取得しています。



「GLOBAL G.A.P.」認証

■横浜市内産花卉の魅力発信

花卉部ではコロナ禍で多くのイベント中止が相次ぐ中、どうにか従来のような取り組みができないか検討し、横浜市庁舎での「第49回横浜花き展覧会」やJA横浜本店でのフラワーディスプレイの展示を行い、市内産花卉の魅力を広く発信しました。



JA 横浜本店でのフラワーディスプレイの展示



■企業連携で新しい農業の価値を創造する

「みつ症」と呼ばれる症状により、食べることはできるのに出荷することができない梨の有効活用策として、横浜の企業と連携してJAオリジナル商品を研究・開発しています。



「横浜ハーバー『幻の浜なし』」



「幻の浜なしナボナロングライフ」の限定販売

■都市と産地の連携により、農業の振興を支える

企業や官公庁、集合住宅等への出張販売などを通じて、横浜産の農畜産物の美味しさを広くお伝えしています。



横浜市庁舎での出張販売



■フードバンクかながわへ物資や寄付金の贈呈

フードバンクは、十分安全であるにもかかわらず廃棄されてしまう食料の寄贈を受け、支援を必要としている生活困窮者に食料を提供する取り組みです。



女性部によるフードバンクかながわへ物資・寄付金の贈呈

■産学連携による横浜野菜のメニュー開発

横浜市内の専門学校と連携した横浜野菜のメニュー開発や販売等、産学連携を意識した取り組みを行っています。



「横浜スイーツ&カフェ専門学校」の学生によるメニュー開発